「兄さんのためにもかならず
ナガスネヒコをたおさなければ。」

イワレヒコは浜辺をはなれて
うら山から攻めることにしました。

「こちらからなら兄さんの言うとおり
太陽を背にして進むことができる。」

うっそうとしげる森を
そろりそろりと進んでいくと、

「ガオー!」

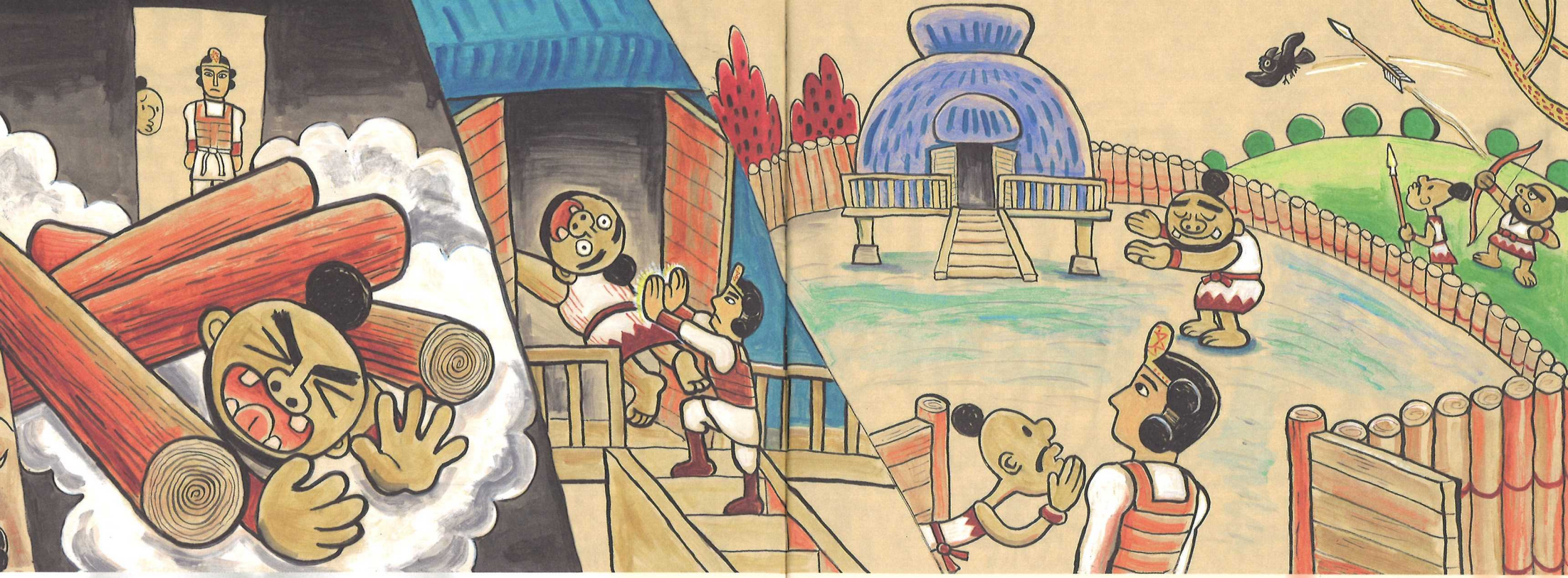
突然、目の前に大きなクマが。

ふしぎなことに、そのクマを見ただけで
みんなばたばたとたおれました。
イワレヒコも気を失いました。

そこへひとりの男がやってきました。

「イワレヒコさま、
天から授かったこの刀があなたを助けるでしょう。」

イワレヒコは「はっ」と目をさまし、
刀を「えいっ」とひとふりすると、
クマはズジーン! とたおれて
消えてしまいました。
「なんとふしぎなことだ。」



ピューッ！
エウカシとオトウカシの兄弟は
やってきたヤタガラスに向かって矢を放って
追いはらってしまいました。
「ちっ、なまいきなカラスめ。」
兄のエウカシがいいました。
「えらそうなイワレヒコ、気にくわんな。
わなにかけてやろう。」
エウカシはイワレヒコを呼びとめました。
「旅のお方、おつかれでしょう。
わが家で休んでいってくださいな。」
そこでエウカシの家に入ろうとしたとき、
心優しい弟のオトウカシがそっとささやきました。
「兄があなたを殺そうとしています。
ご注意ください。」
イワレヒコはエウカシにいいました。
「どうぞ、この家のご主人が先にお入りください。」
するとエウカシは、

「いえいえ、お客様が先に・・・・」
「いや、あなたが先に！」
どん！と
エウカシの
せなかをイワレヒコが押すと、
ガラガラ　ズッシーン！
「あいたたたたた！」
上から丸太が落ちてきて
エウカシはおしつぶされてしまいました。
「あぶないところだった。」
イワレヒコはオトウカシを家来にして
さらに先を急ぎました

すると、どこからともなく
金色のトビが飛んできて、
弓の先に止まりました。
そしてピカッと光ったのです。

「うわーっ、目をやられたー！」

ナガスネヒコたちは
うずくまってしまいました。
そのすきに一気に攻めて、
ナガスネヒコをとらえました。

「まいった、降参ですー！」

とうとうイワレヒコ軍が勝ったのです。

「ばんざーい、ばんざーい、！」